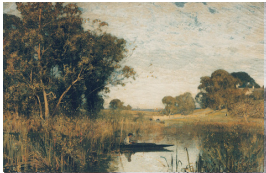


展示室 1 イギリスの美術－風景画と肖像画－



サー・アルフレッド・イースト
「九月の陽光」

18 世紀から 19 世紀にかけて、イギリスでは美術の分野で大きな発達が見られます。なかでも、風景画と肖像画はイギリス美術の大きな柱となっています。貴族社会のなかでもはやされた肖像画は、18 世紀後半に、 Hogarth や Gainsborough、 Reynolds らによって確立されました。鋭い人間観察に基づいて描かれた作品には、強い存在感があります。

また、それまで絵画のジャンルの中では低い地位で扱われていた風景画は、 Turner や Constable といった巨匠たちの活躍によってイギリス国内を中心に発展し、後の美術史の流れに大きな影響を与えました。

風景の捉え方は画家によって様々です。風景と向き合う画家の眼を意識しながら鑑賞してみるのもおもしろいかもしれません。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
アレクサンダー・カズンズ	川岸に神殿のある風景		水彩・紙
トマス・ローランドソン	北ウェールズ、カマーゼンの風景、教会へ向かう人々	1790 年代初頭	水彩・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ベン・アーサー	1819	エッチング、メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エディスタン灯台	1824	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	穀物畑の農家	1844 頃	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	水浴びをする人たち、ハムステッド	1845 以前	メゾチント・紙
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	自画像		エッチング・紙
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	ジェームズ・クラーク・フックの肖像		エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758 - 60 頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1759 - 67 頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790 年代初頭	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868 - 84	油彩・キャンバス
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	テダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807 頃	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンバス

展示室 2 日本油彩画の表現



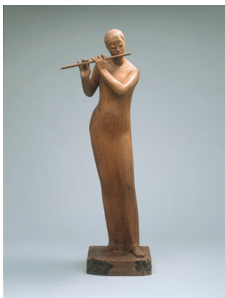
司馬江漢
「飛鳥山図」

江戸時代、日本に西洋絵画がもたらされると、人々はその高い写実性に驚きました。浮世絵や漢画を手掛けていた司馬江漢は西洋画法を研究し、油彩画で日本の風景や風俗を描きます。近代日本洋画の父といわれる高橋由一も、初めは狩野派に学びましたが、西洋絵画の迫真的な画法に衝撃を受けて外国人画家から油彩技術を学びました。

明治期に入ると、日本は急速に近代化を目指し、その影響は美術にも及びます。日本人画家のヨーロッパへの留学が盛んになり、東京美術学校などが開設されました。洋画が普及すると、画家の関心は技術の習得から、独自の表現の追求へと移行していきます。最先端の西洋美術を受容し、自分のものにしようとした日本人画家の取り組みをご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
司馬江漢	飛鳥山図	寛政後期	油彩・絹
高橋由一	風景（鳥海山）	1880年代	油彩・キャンバス
百武兼行	風車のある風景	1877（明治10）	油彩・キャンバス
山本芳翠	菊と蕪と蝸牛		油彩・キャンバス、板
浅井忠	収穫	1893（明治26）	油彩・紙、板
原撫松	日本髪若い女性像		油彩・キャンバス
黒田清輝	東久世伯肖像エスキース	1894（明治27）	油彩・キャンバス
中沢弘光	風景（海）	1921（大正10）	油彩・キャンバス
山下新太郎	苔寺	1922（大正11）頃	油彩・キャンバス
木村荘八	祖母の顔	1916（大正5）	油彩・板
小出楯重	自画像	1918（大正7）	油彩・キャンバス
満谷国四郎	冬	1922（大正11）	油彩・キャンバス
岸田劉生	銀座と数寄屋橋畔	1911（明治44）頃	油彩・板
中川一政	冬の郊外（葱畑）	1918（大正7）頃	油彩・キャンバス
吉井忠	山湖	1931（昭和6）	油彩・キャンバス
石川寅治	房総風景	1923-24（大正12-13）頃	油彩・キャンバス
藤島武二	「耕到天」習作	1936（昭和11）	油彩・キャンバス
齋藤与里	海辺秋景	1937（昭和12）頃	油彩・キャンバス
梅原龍三郎	静物		油彩・キャンバス
安井曾太郎	初秋の北京	1944（昭和19）	油彩・キャンバス
中村彝	朝顔	1923（大正12）	油彩・キャンバス
中山巖	花鳥B	1934（昭和9）	油彩・キャンバス

展示室3 郡山の彫刻



佐藤静司
「フルーティスト」

大正から昭和戦前期にかけて官展を中心に活躍した木彫家・三木宗策。その門下には佐藤静司をはじめとして本田晶彦、柳沼曹雲といった市内および県内出身の作家が集まりました。一方、塑造によって抽象表現を取り入れた人体を制作した湖南出身の三坂耿一郎は、日展を代表するひとりとして活躍しました。

今回は、企画展「没後70年 三木宗策の世界 木彫の正統」開催に合わせ、三木の後に続いた世代の彫刻家たち—佐藤静司、本田晶彦、三坂耿一郎を紹介します。

市内には駅前や公共施設周辺など、三坂や佐藤のブロンズのモニュメントが点在しています。この機会にこうした市内のモニュメントなどにも関心をよせ、生活の中で彫刻を楽しんでみませんか。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
本田晶彦	少年	1960(昭和35)	木彫	本田悦久氏寄贈
本田晶彦	裸婦	1964(昭和39)	木彫	本田悦久氏寄贈
本田晶彦	トルソ	1967(昭和42)	木彫	本田悦久氏寄贈
佐藤静司	獺	1936(昭和11)	木彫	
佐藤静司	合掌	1986(昭和61)	木彫	
佐藤静司	フルーティスト	2000(平成12)	木彫	佐藤静司氏寄贈
佐藤静司	街の詩	2006(平成18)	木彫	佐藤静司氏寄贈
三坂耿一郎	まとう	1967(昭和42)	ブロンズ	
三坂耿一郎	女童	1974(昭和49)	ブロンズ	

展示室4 版芸術と技法



川上澄生
「夜の銀座」

版画は、版に絵柄を施し、紙などに写し取る方法で作られます。複数性があるため、版画は本の挿絵をはじめ、古くからいろいろな用途に使われてきました。

版種には木版、銅版、石版、シルクスクリーンなど様々あり、技法も多岐にわたっています。版画は古くから作られてきましたが、とりわけ近代以降、それぞれの版の性質を生かした個性豊かな芸術表現が数多く生まれました。

今回は、当館の版画コレクションから選りすぐった作品を展示し、代表的な版種と技法について紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●木版			
山本昇雲	『今すがた』より すずし顔	1906 (明治 39)	木版・紙 亀井よし子氏寄贈
吉田 博	神の島	1930 (昭和 5)	木版・紙
フランク・ブランギン (画) 漆原木虫 (刻)	『木版画集』より ローザンヌ橋 瑞西		木版・紙
川上澄生	夜の銀座	1929 (昭和 4)	木版・紙
斎藤 清	ノートルダム、パリ	1974 (昭和 49)	木版・紙
トマス・ビューイック	野生の牝牛	1789	木口木版・紙
山本芳翠 (画) 合田 清 (刻)	磐梯山噴火真図	1888 (明治 21)	木口木版・紙
日和崎尊夫	『FURESIMA』(坂本直昭著、創流舎)	1980 (昭和 55) 刊	木口木版・紙/ポートフォリオ
柄澤 齊	『死と変容! 夜』より 水	1988 (昭和 63) 刊	木口木版・紙/ポートフォリオ
●銅版			
ウィリアム・ホガース	卵を割るコロンプス	1752	エッチング・紙
ジョン・マーティン	光の創造	1825	メゾチント・紙
エドアルド・キヨソネ	日本銀行兌換銀券 壱圓	1888 (明治 21)	エングレーヴィング・紙
石田有年	『京都名所五十景』のうち 洛北銀閣寺		
長谷川 潔	シャトー・アルヌーの寺院	1932 (昭和 7)	メゾチント・紙
駒井哲郎	13	1959 (昭和 34)	エングレーヴィング、エッチング、アクアチント・紙
山下清澄	『七つの幻想庭園』(アンドレ・P・マンディアルグ著)	1983 (昭和 58) 刊	エッチング、アクアチント・紙/ポートフォリオ
池田満寿夫	樹木	1961 (昭和 36)	ドライポイント、ルーレット・紙
●石版			
亀井竹二郎	『国画余芳 正倉院御物』(印刷所蔵版) 『懐古東海道五十三驛真景』(徳永柳舟・町田信次郎画作、大山印刷所発行)のうち 「四日市驛 燈明臺」「大磯驛 海濱晴景」 「平塚驛 馬入川」「川崎驛 六合川眺望」	1880 (明治 13) 1891-92 (明治 24-25)	石版/本 石版・紙/ポートフォリオ
織田一磨	本郷龍岡町 (『東京風景』から)	1917 (大正 6)	リトグラフ・紙
瑛 九	拡声器	1957 (昭和 32)	リトグラフ・紙
泉 茂	ほらふき	1958 (昭和 33)	リトグラフ・紙
オノサト・トシノブ	64-F	1964 (昭和 39)	リトグラフ・紙
●シルクスクリーン			
巖 嘔	テル・ミー・ナウ	1966 (昭和 41)	シルクスクリーン・紙
ウィリアム・スコット	ホワイトボウルとブラックパン	1970	シルクスクリーン・紙

展示室4 ガラスに刻む



佐藤潤四郎
「オブジェ・象形文字 (羊)」

ガラス工芸の作業は大きく「成形」と「加飾」に分けられます。全体のフォルムを形成するのが「成形」で、それにさまざまな文様や装飾物を加えることを「加飾」といいます。その「加飾」の技法のうち、今回はガラスの表面を刻んで加飾する技法にスポットを当てました。

たとえばカットやグラブールは江戸時代から日本でも行われていた技法で、前者は「切子」の訳で親しまれています。サンドブラストは細かい砂を圧縮空気でガラス面に吹きつけて、エッチングは腐食液でガラスを侵食させる技法で、見た目にはどちらも同じような状態になります。これらに加え、粘土の型をガラスに押し付けることで文様を刻むサンドキャストの作品も、貴重な型の原型とともに展示します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	花器	1986 (昭和 61)	型吹き・エッチング、カット	
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82 (昭和 55-57) 頃	型吹き・エッチング、カット	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器 (控) No.1	1980 (昭和 55)	宙吹き・カット	
佐藤潤四郎	舍利器		宙吹き・カット	
佐藤潤四郎	瓶・ガラスの神様		宙吹き・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	植物文一輪挿し		宙吹き・グラヴェール	
佐藤潤四郎	大杯・ガラスを吹く人	1986 (昭和 61)	宙吹き・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	大杯・ワインを造る		宙吹き・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		宙吹き・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	葡萄文ワイングラス		宙吹き・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	竹に雀文ワイングラス		宙吹き・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		型吹き・グラヴェールなど	
佐藤潤四郎	花器・馬車に乗るガラスの神様	1973-6 (昭和 48-51) 頃	宙吹き・サンドブラスト	
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		宙吹き・サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・手	1984 (昭和 59) 頃	サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡	1984 (昭和 59) 頃	サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤順四郎	オブジェ・象形文字 (羊)	1984 (昭和 59) 頃	サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡ロータス		エッチング、サンドブラスト	
佐藤潤四郎	花器・アダムとイヴ		宙吹き・サンドブラスト	
佐藤潤四郎	硯屏・いのしし	1966 (昭和 41) 頃	サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	ペーパーウエイト・ペガサス		サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	硯屏・ガラスの神様 (複製)		サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	上記 3 作品の雄型		耐火煉瓦	木村四郎氏寄贈
各務鑛三	クリスタル花瓶《鱗影》	1970 (昭和 45) 頃	宙吹き・気泡封入、グラヴェール	田淵十一氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
● 1 階				
細川宗英	装飾古墳シリーズ 9	1963(昭和 38)	セメント	細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958(昭和 33)	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
● 2 階展示ロビー				
清水多嘉示	フランスの女			
柳原義達	女の首	1958(昭和 33)	ブロンズ	
アリストイード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正 6)	大理石	
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤順四郎	陶器で仏足跡 2		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤順四郎	石で仏足跡		石	大方竜子氏寄贈
● 前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	